

ひらやま 八号

一学期がんばること  
五年一組 末松 里緒菜

すに数つ友た表まもうする一とま  
す。しかしで達だがす、とる前つがまず、  
ベ増すの、でがこ思つに、は、一学期を振り返つて思う  
ルえがア四きそよしまちがつたらどうしよ  
アて、ド年なうなつと、が、あると思ひん  
ツき発バ生のなつてし、積極的な発表です。  
しま表イのころと、比べます。少しず  
ブしにスもと、あり、少しず  
す。する自信と回す  
今後、さら  
いたい



時間  
六  
三  
三  
二  
三  
四  
五  
六

第九回 高森文夫を偲ぶ詩大会  
〔佳作〕

【宮崎日日新聞『若い田』  
令和四年七月二十三日】

※  
作の品詩中田結五。年菜でさのん



いよす またラつなお し口れゆ  
をう。ほす こ、てめ仕ぼゆーだるお  
食に自く。とついす事くるスけい肉  
べな分は、もワまらをのい、知がの  
てつで、な、すししおくバつあぶ  
みたババ いマ。いて父らラてりい  
たら、！ な、名メほおいさい、いまには、  
い、ベベ 前なか肉るんあタます  
とゼキキ がどにののはりんす  
と思んユユ た、もしで、たます。なろ  
い、心ぶー くぼさくアるいろをさ  
まのがが さんがミいろをいば  
ましで好き ありアをいば  
た。ゆきで ありいブ知ろく

〔夕刊テイリー『光の子』  
令和四年七月二十八日〕

